

イタリア フィアット

持続可能な自動車工場づくり

13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさを
守ろう



温室効果ガス排出量削減

イタリアの自動車メーカー「フィアット」は、持続可能な自動車工場づくりに力を入れている。トリノのミラフィオーリ工場に20億ユーロを投じ、環境性を高めた。例えば、15ヘクタール規模のソーラーパネルを設置し、工場内に15メガワットを供給することで、「年間5000トン以上のCO2排出量を削減できる」(同社)としている。



ミラフィオーリ工場で生産している電気自動車「フィアット500」
(ステランティス社提供)

一部車種内装に環境素材

他方、海の環境を守る活動も手がけている。海に捨てられた漁網「ゴーストネット」は、海洋生物に絡まるなど悪影響を及ぼし、地球規模で問題となっている。フィアットは一部車種の内装に、海洋廃棄物を回収し繊維化したシートを採用。ユーザーが海洋環境を考える機会につなげようと、「シートのタグは意図的に目立つ場所に配置している」(同社)。

今後のSDGsの取り組みについて、フィアットを含むステランティス社は、商品の製造から廃棄までの排出量を明示する「カーボンフットプリント」を、2030年には21年比で50%まで削減する方針だ。また、38年には完全にゼロを目指す。



電気自動車「フィアット500」の車内 (ステランティス社提供)

伊経済支えるトリノの車産業

イタリアの工業化は1800年代末から1900年代初頭にかけて、北イタリアのミラノ、トリノ、ジェノバを結ぶ三角地帯で始まったという。トリノは、1899年創業の自動車メーカー「フィアット」が、国内最大の企業グループへと急成長を遂げたことにより飛躍的に発展。現在も、多くの自動車関連企業が集積している。

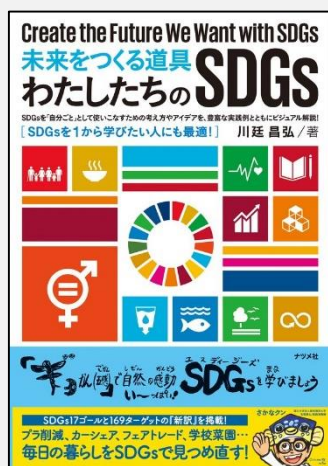


ミラフィオーリエ場内の様子（ステランティス社提供）

「イタリア～都市国家の歴史を受け継ぐ社会経済」（外務省）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol39/index.html> を基に作成。

オ ス ス メ の 一 冊



未来をつくる道具わたしたちのSDGs

川廷昌弘著（ナツメ社、2020年）

【請求記号】3338.438

SDGs17のアイコンに日本語コピーをつけたことは、国内で「持続可能な開発目標」が広がる大きな契機となった。日本語コピーの作成を主導した、博報堂DYホールディングスの川廷昌弘氏は、ある講演の中でアイコンを日本語化するにあたって「単なる翻訳ではなく、SDGsを“自分ごと化”する必要があった」と語っていた。一人ひとりがSDGs17の目標を「自分ごと」として捉えることができれば、持続可能な開発目標はより早期に実現するかもしれない。

執 筆 者 紹 介

中山陽子／社会学研究科 修士1年

趣味は世界遺産巡り。イタリアには2度訪れた。今度はトリノにも足を運んでみたい。

